生徒のコミュニカティブコンピタンスを高めるための学習指導とその評価のあり方

平松仁史
英語科　端崎圭一
三田耕平

1．テーマ設定にあたって

(1) 学習指導要領との関連

『外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。』

これは，学習指導要領の外国語の目標であるが，昨年度，英語科ではこの目標を，全体として，『コミュニカティブコンピタンスを育成していくこと』と捉えた。具体的に授業においては，学習者に応じたシラバスを選択し，文法中心に陥ることなく，その外国語が話されている社会における適切なコミュニケーションのとり方を学ばせる指導を重視し，自分は何をしようとして，何をしているのかを自覚し，意図的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成をめざしてきた。

今年度もこれを踏襲し，本校のこれまでの取り組みをさらに発展させていくことを確認している。

(2) 評価との関連

平成12年12月教育課程審議会答申において，生徒の一人一人の学習状況を適切に評価するために絶対評価を一層重視すること，そして，学習状況を客観的に評価するために評価規準・評価方法等研究開発することが打ち出された。これを受けてこの4月から本校では，「主として授業中の評価をどのようにするか」ということに焦点を当てながら研究を進めているが，英語科では，「授業中の評価」を「コミュニケーション活動における評価」と捉え，いくつかの評価場面を設定しながら，そのあり方を模索することにした。

コミュニケーション活動における評価の方法を考える上で，それを，便宜上，大きく2つに区分して扱うことにした。1つは，生徒の学習に対する内的動機を高めるための方法であり，もう1つは，学期末や学年末に行う総括的評価のための資料収集方法である。より具体的にいうと，前者は，生徒が活動中に見せる応答や学習成果に対して“Good !”や“Excellent !”などと誉め言葉をかけたり，アドバイスを与えたりする教師から生徒への即時的フィードバックの方法のことである。この即時的フィードバックについては，日々の授業の中で教師が今まで行ってきたことを再構築したり意識化したりしていくことで明確になると考える。後者は，単元の目標を生徒個々がどれだけ実現しているかを，授業中に多少時間をかけて観察したりインタビューしたりして評価資料を収集する方法のことである。

即時的フィードバックの方法としては，1つの有効な手段として自己評価・相互評価も取り入れることを考えている。ただし，その際には，評価の規準について教師が十分指導し，自己教育力を高めたり相互の励ましあいをしたりする評価活動として取り扱い，総括的評価には含めないつもりである。

コミュニケーション活動における評価資料収集法は，主に，①観察記録法②インタビュー法を考えている。コミュニケーション活動では，教師と生徒，または，生徒同士の応答が連続して起こる場面が大半を占める。評価データを収集する際，教師がメモを取るなどの作業をすることで，この連続性を中断

しないようにどのように工夫するかが大きな課題であると考える。学習指導要領の外国語の目標に「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」とある。評価をするために授業の流れが止まり，生徒の意欲が萎むことのないように，また，コミュニケーションが寸断されることのないように，授業のどこにどのような評価方法を入れていくかを工夫検証してみたい。

2．1年生での実践（必修授業）

(1) 必修授業

本校では，全教官を対象にした研究授業を教科ごとに実施し，授業の中の評価をどのようなものにしていくかを模索してきた。ここでは5月に行なった英語科の研究授業を中心に，授業中のコミュニケーション活動における評価，特に評価資料の収集について述べていきたい。

① ビンゴを利用した評価（1～3年共通の取り組みとして毎時間実施）

ア．実践の概要

本校では，これまでも授業の最初にウォーミングアップとして浜島書店編『Let's Enjoy BINGO !』を取り入れてきた。今春から，これを評価にも利用することにした。

読み上げられるビンゴ中の語（句）を使った質問を毎回数名の生徒にし，生徒の応答を評価するものである。1年生では，評価の観点（評価規準）を「教師の質問に対して英語で答えることができる。」こととした。（評価基準については，指導案を参照）

以下の例のように，クラス全体に発せられた質問に続いて，生徒の名前を呼び，答えさせるようにした。1年生では生徒の発達段階に応じて，生徒の応答に対して教師がさらに質問し，言葉のやりとりを2往復以上にしたり，「テスト」にならないように生徒と会話する感覚を大切にしたりしながら取り組んだ。以下はその具体例である。

（1年ビンゴ中の対話）

・4～5月　教師：B. Soccer, soccer.　I have a question.　Do you like soccer ?
(Repeat)　Taro.
生徒：Yes, I like soccer.
教師：Oh !　You like soccer.（他の生徒にも繰り返させたり，言わせる。またサッカーの好きな生徒には，さらに Me too. と付け加えさせるなどの活動を徐々に取り入れた。）

・9月下旬　教師：B. Walk, walk.　I have a question.　Do you walk to school ?
(Repeat)　Taro.
＊生徒：No, I don't.
教師：...（時に，How do you come to school ?）
生徒：あっ。I go to school by bus.
教師：Oh, you COME to school by bus ?（時に，日本語による訂正）
生徒：Yes, I come to school by bus.

以上のように他の生徒を対話に関わらせたり，生徒の応答に対してさらに質問をしたりした。＊の部分のように期待される答えが後に続きそうな応答の場合，わずかな時間教師が待つと，期待さ

れる答えを続けて言おうとする生徒もしだいに増えてきた。

イ．評価について

この活動では「表現の能力」の speaking を観察により評価する。質問に答える時には，アイコンタクトを意識して話すように指導し，また，友達に頼ることなく１人で答えようとする姿勢，より多くの英語を使って表現することに気をつけさせた。これらの点についての失敗や，文法的な誤りをその場で訂正させ，もう１度言わせたり，クラス全体に言わせたりすることが，生徒に対するフィードバックとなる。（２年生のビンゴについては，111ページ参照。）

② インタビューとレポートを利用した評価

ア．実践の概要

６～７人班のうちの１人または２人をレポーターとする。（連続した活動となるので，班内でレポーターの順番を決める。）教師の与えた質問を班員に尋ね，その答えを専用のメモ用紙に書き，その内容をクラス全体の前でレポートする活動である。他の生徒は，レポートを聞き，内容を手元のメモ用紙に書く。当初は毎時間，６月中旬からは週１回程度実施した。メモの方法は，当初は記号を用い，アルファベットの導入とともに徐々に文字に移行していった。メモ用紙は座席表形式のものを使い，当初はひらがなによる名前入り，次にローマ字，最後に無記名とし，書き取りの際，余裕のある生徒には友達の名前もローマ字などで記入するように指導した。

・質問とレポートの内容の例

	質　問	レポート
1	How are you ?	Taro is fine.（He を主語に繰り返す）
2	Where are you from ?（住所）	Taro is from Heiwa-machi.（repeat）
3	Where are you ?（ビンゴ地図）	Taro is in Tokyo.（repeat）
4	What's your favorite ～ ?	Taro's favorite ～ is －.（repeat）
5	What ～ do you like ?	Taro likes －.（repeat）
6	Do you like ～ ? ＋ 5	Taro doesn't like ～. / He likes －.

質問１は毎時間答える内容が変わるので，当初からしばらく継続し，その定着をはかった。答え方のバリエーションを徐々に増やしていくなどの工夫をした。授業の最初の活動として，ビンゴよりも先に行なったが，質問２以降はビンゴの後に行なった。

質問の与え方は，１～３は，全グループに同じ質問を口頭で与えた。質問４～６は，～の部分を６パターン考えておき，グループに順番に質問をローテーションさせた。４は口頭で，５以降は紙に書いたものを見せ，暗記してインタビューにあたらせた。

イ．評価について

この活動における評価の場面は，ａ．レポーターが班員に質問する場面　ｂ．レポーターがレポートする場面　ｃ．レポートのメモ用紙の評価の３つである。

ａ．レポーターが班員に質問する場面

毎回１つの班を観察し，質問を受ける側の生徒の応答について，「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」と「表現の能力」の speaking を観察により評価する。「表現の能力」の評価基準については，指導案を参照。ビンゴと同様の基準を設けている。アイコンタクト，独力で答えようとする姿勢，より多くの英語を使って表現することについて，失敗や文法的な誤りをその場で訂正させ，もう１度言わせたり，班員に言わせたりすることが，生徒に対するフィードバッ

クとなる。

・「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」の評価基準

A　ジェスチャーなどを使って，分かりやすく答えようと努力している。

B　質問に答えようと努力している。

C　質問に答えようとする努力が認められない。日本語で受け答えをする。

b．レポーターがレポートする場面

レポーターについて，「コミュニケーションの関心・意欲・態度」と「表現の能力」の speaking を観察により評価する。「表現の能力」の評価基準については，指導案を参照。レポートは英語として不自然でないスピードを目指させ，ゆっくりになり過ぎないように注意している。速さ，声の大きさ，誰のことを話しているかを示すジェスチャーについての失敗や文法的な誤りについては，その場で訂正させ，もう１度言わせたり，全体に言わせたりすることが，生徒に対するフィードバックとなる。

未習の語について，レポーターやその語を使って答えた生徒に対して，How do you spell it？などの必要な表現を与え，時々使うように工夫した。こういった表現は，しだいに定着していった。

・「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」の評価基準

A　ジェスチャーなどを使って，分かりやすくレポートしようと努力している。

B　集めた情報をレポートしようと努力している。

C　意欲的にレポートしようとする姿勢が認められない。

c．レポートのメモ用紙の評価

その日のレポーターのメモは，授業中に集め，班員の答えのメモについて，「表現の能力」の writing を評価する。評価基準については，指導案を参照。つづりの間違いや基本的な単語を日本語で書いている場合，直して返却することが生徒に対するフィードバックとなる。また，レポートの発表の場面で，良かった点や，悪かった点，アドバイスや励ましの言葉を書いて返却することは，b についてのフィードバックとなる。

全員のメモ用紙は，４回に１回集めて，「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」と「表現の能力」，「理解の能力」の writing を評価する。

「表現の能力」の評価基準については，指導案を参照。

・「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」の評価基準

A　全クラスメートについて，詳しくメモしようとした努力が常に認められる。

B　半分以上のクラスメートについて，メモしようとした努力が認められる。

C　多くのクラスメートについて，メモしようとした努力が認められない。

・「理解の能力」の評価基準

A　多くのクラスメートについて，常に正確にメモされている。

B　半分以上のクラスメートについて，正確にメモされている。

C　半分以上のクラスメートについて，正確にメモされていない。

③　コミュニケーション活動の中の評価

ア．実践の概要

教室を歩き回って必要な情報を集めるコミュニケーション活動中，指定した生徒が教師の所へ

来て，教師と質疑応答をするものである。生徒が質問者になり，教師が答える。逆に教師の質問に対して，生徒が答えるというやりとりを通して評価する。

イ．インタビューゲームの評価について

この活動では「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」と「表現の能力」の speaking を観察により評価する。「表現の能力」の評価基準については，指導案を参照。ここでも，アイコンタクトやジェスチャーなどを伴った対話を意識させ，失敗や文法的な誤りがあれば，その場で訂正させ，もう１度言いなおさせることが，生徒に対するフィードバックとなる。

・「コミュニケーションに対する関心・意欲・態度」の評価基準

A　ジェスチャーなどを使って，間違いを恐れずに分かりやすく質問したり，答えたりしようと努力している。

B　間違いを恐れずに質問したり，答えたりしようと努力している。

C　表現しようとする努力が認められない。

④　おわりに

５月に行なった研究授業では，できるだけ多くの評価の場面を設け，可能な限り多くの生徒を評価するようにした。その評価の多くが，生徒の表現活動を観察し，即時的フィードバックをする方法となった。英語の授業の中で行なわれるコミュニケーション活動そのものが，フィードバックのチャンスであることが改めて明らかになった。

この評価は蓄積されて評定へと結びついていくものである一方，評定とは関係のない日常的な表現活動として，どんどん授業の中に取り入れていき，フィードバックによって生徒の意欲やコミュニケーション能力を高める機会ともなるものである。評価したり，されたりする辛さではなく，英語でコミュニケーションすることの楽しさを英語教師として伝えていきたい。

研究授業では，評価される生徒の数と授業に占める時間が多過ぎないか，また，そのような評価を長続きさせられるかということが問題となった。また，評価に夢中になるあまり，机間巡視ができなかったり，クラス全体を見る視点を失っていたりということもあった。多くの生徒にコミュニケーションの機会を与え，繰り返し評価していくことは，生徒の意欲や能力を高めることになるだろうが，毎回続けられる普段着の評価活動について，計画的に取り組んでいかなければならない。

英語科　学習指導案

2002年５月21日㈫

５限　１年３組教室

指導者　三田　耕平

１．単元名　Program３　先生に聞いてみよう

２．目標

・一般動詞を使って自己紹介をすることができる。

・like を使って自分の好き嫌いを表現することができる。

・Do you ～？の疑問文とその応答の仕方を理解し対話をすることができる。

３．評価の観点及び規準

①　コミュニケーションへの関心・意欲・態度

・学んだ表現を用いて，間違いを恐れずに自分のことを表現しようとしている。(話す)

・意欲的にコミュニケーション活動に参加しようとしている。(聞く，話す)

② 表現の能力

・相手のすることについてたずねたり，相手の質問に答えたりすることができる。(話す)

③ 理解の能力

・自然な口調で話される英語の内容を聞き取ることができる。(聞く)

・相手の話に関心をもち，聞いたことに関して適切な質問をする。(聞く)

④ 言語や文化についての知識・理解

・一般動詞の表現（肯定・否定・疑問文と答え）について理解している。(話す，書く)

4．指導にあたって（A教材観，B生徒観，C指導観，D評価観）

A 一般動詞については，これまでの授業で like の肯定文や疑問文を使ってきたが，この単元では like 以外の一般動詞を導入し，いろいろな動詞を使った質問をするところである。質問の仕方を本格的に学び，友達や先生に質問したり，質問に答えたりすることができるようにしたい。

B 生徒は大半が中学校以前から，英語を習ってきており（短くて1カ月，長くて6年以上)，一般動詞にも親しんでいることが考えられる。しかし，ついつい日本語的な発音に流されたり，形式的な発表になってしまったりすることもあるため，気持ちを込めて質問したり，ジェスチャーなどを交えて答えたりすることを習慣づけていきたい。質問することを通して，相手のことを知ったり，自分のことを伝えたりするコミュニケーションの喜びを忘れさせないようにさせたい。

C 生徒はこれまでの授業で教師の like を使った質問に答えたり，友達の答えに対して Oh, you like ～. と答えを返したりしているが，自分から一般動詞を使って質問するのは初めてである。毎回使ってきた You like ～. の表現から自然に疑問文を導入したい。また，答え方については，これまで Yes, I like ～. や No, I don't like ～. を使ってきているので，Yes, I do. / No, I don't. の表現については，これらを導入しつつ，Yes, I do. I like ～. などと続ける習慣をつけさせたい。

D 毎回2つの評価を継続している。1つはビンゴ・ゲームの活動の中で，ビンゴに出てくる単語を使った質問を4人の生徒に計画的にしていくもので②表現の能力を観察し，その様子を記録簿に記入し，評価する。もう1つは，生徒の代表6人が与えられた質問（現在は，How are you？という質問を継続して行なっている）を各グループで行ない，その結果をレポートする活動で，①コミュニケーションへの関心・意欲・態度と②表現の能力を観察し，その様子を記録簿に記入し，評価する。

この単元では，活動の観察による評価を重視する。全体の前での自己紹介を発表させ1人を観察する形，班活動中1つの班に指導者が寄り添い班員全部を観察する形，インタビューゲームなどで数人を指導者のところに来させる面接の形など，観察の形をいろいろ試したい。

5．指導計画（総時間数 6時限）　　評価計画

第1次 一般動詞の肯定文

「わたしは～します。」 …（2時限）　①②

第2次 一般動詞の疑問文

「あなたは～しますか。」 …（2時限 本時はその1時）　①②③④

第3次 一般動詞の否定文

「わたしは～しません。」 …（2時限）　①②③④

6．本時の学習（第2次中の1時）

(1) 題材名 Program 3 先生に聞いてみよう Section 2

(2) ねらい　相手のすることについてたずねたり，答えたりすることができる。

(3) 評価の観点及び規準

① コミュニケーションへの関心・意欲・態度

・学んだ表現を用いて，間違いを恐れずに自分のことを表現しようとしている。(話す)

・意欲的にコミュニケーション活動に参加しようとしている。(聞く，話す)

② 表現の能力

・あいさつや相手の質問に答えることができる。(話す)　(継続)

・班員についてレポートができる。(話す)　(継続)

・聞いた内容を英語でメモできる。(書く)　(継続)

・相手のすることについてたずねたり，相手の質問に答えたりすることができる。(話す)

③ 理解の能力　本時は評価しない。

④ 言語や文化についての知識・理解　本時は評価しない。

(4) 本時の展開　★教師による評価

学習活動	配慮事項及び評価	時間	評価観点			
			①	②	③	④
1．あいさつ Greetings	・アイコンタクトを意識しながら，元気にあいさつする。					
2．インタビューとレポート Interview & Report ・今日のリポーターが班員に質問をする。(1分) ・インタビューの結果を発表する。(9分) ＊最終項目参照	・レポーターは，1人1人へ名前を呼んであいさつし，質問をする。聞かれた者は，英語で応答する。レポーターはメモをとる。 R：Hi, ～.　How are you？　S：Fine.　Thank you. ★［観察］毎回一班を観察する。 A：アイコンタクトに気をつけながら，表情豊かに答えることができる。 B：答えることができる。 C：答えることができない。日本語で答える。 (援助) 答えの例をいくつか示し，答えさせる。 ・レポーターは班員の答えについてレポートをする。 R：Taro is fine.　He's fine. ★［観察］6人のレポーターを観察する。 A：適当な速さや声の大きさで，友達を指さしたりしながら，レポートすることができる。 B：レポートすることができる。 C：半分以上レポートができない。 (援助) 教師とともに質問とレポートをやり直す。 ★［メモ用紙の評価］レポーターのメモ用紙。 A：英語で正確にメモできている。 B：メモできている。 C：半分以上メモできていない。日本語。 (援助) "Fine ?" と聞き返す表現を教える。 英語のつづりを練習させる。	10	○ ○	○ ○ ○		

学習活動	配慮事項及び評価	時間	評価観点			
			①	②	③	④
3．ビンゴ BINGO	・BINGO を楽しむ（教師の英語を聞き取り，単語に○をつけていく）。BINGO になったら手を挙げる。 ・教師の質問に答える。 T : Do you like ～, S ? S : Yes, I like ～. / No, I don't like ～. ☆［観察］毎回４名ずつの生徒に質問する。 A：アイコンタクトなどに気をつけながら，表情豊かに答えることができる。 B：教師の質問に答えることができる。 C：答えられない。友達に聞く。 （援助）ゆっくりと質問を繰り返したり，別の表現で聞いたりする。日本語を交えた英語で質問する。	5		○		
4．like 以外の動詞の導入 Introductions of know, have, play, and want	・クイズ形式で４つの動詞を導入する。後の問題ほど難しくなるようにする。動詞はクイズの後半にカードで示し，文を繰り返させる。 ・姓名のどちらかを隠した有名人の名前を板書し，５つの動詞を使いながら，ヒントを出していく。	15				
5．練習 Practice	・５つの動詞を使った質問の文を練習する。 You know Ichiro. ⇒ You know Ichiro ? ⤴ ⇒ Do you know Ichiro ? ⤴ ・答え方を練習する。 Yes, I do. I know Ichiro. No, I don't. I don't know Ichiro. ・ワークシートを配布し，オリジナルの質問を５つ（１つの動詞につき１つ）考える。 ・Excuse me. Thank you. Goodbye. を導入する。 ・モデルを見せる。 A : Excuse me. B : Yes ? A : Do you know Ichiro ? B : Yes, I do. I know Ichiro. A : Thank you. Goodbye. B : Goodbye. ・隣りの人と質問の練習をする。ワークシートに書き込む。	10				
6．インタビューゲーム Interview Game ・インタビューをする。 （制限時間は５～６分）	・制限時間の中でいかに多くの人に質問できたかを競う。指定された６人の生徒は教師にも質問する。 ☆［観察］ A：アイコンタクトに気をつけながら，表情豊かに聞いたり答えたりすることができる。 B：聞いたり答えたりすることができる。 C：答えられない。 （援助）質問者はゆっくりと質問を繰り返したり，ジェスチャーなどを交えて質問するようにアドバイスする。	10	○	○		

学習活動	配慮事項及び評価	時間	評価観点			
			①	②	③	④
	★［ワークシート］ A：自分で５つの質問を考えることができた。 たくさんの友達に質問できた。 B：自分で質問を考えた。数人に質問できた。 C：自分で考えた質問がない。 （援助）動詞の意味を示し，目的語に入れる単語をいくつか考えてくるよう課題を出す。		○	○		
7．あいさつ Greetings	・アイコンタクトを意識しながら，元気にあいさつする。					

＊インタビューとレポート Interview and Report ・レポートを聞き取り，メモをとる。	・レポーター以外の生徒は，レポートを聞き，自分の班の生徒については，Fine.／So-so.／Not so good. のいずれかで，他の班の生徒については，同じ内容を◎○△の記号でメモする。 ★［メモ用紙の評価］４回に１回集め，評価する。 A：いつも英語で正確にメモできている。 B：半分以上メモできている。 C：半分以上メモできていない。 （援助）レポート結果を教師が再度聞かせ指導。		○	○	○	

A

date＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

class＿＿no.＿＿name＿＿＿＿＿＿

友達に聞いてみよう！

A： Excuse me. Do you [like apples] ?
B： Yes, I do. I [like apples]. または No, I don't. I don't [like apples].
A： Thank you. Goodbye.
B： Goodbye.

(1)新しく習った単語を使って友達にいろいろなことを聞いてみよう。①～⑤は自分で質問を考えよう。英語で書ければ英語で。日本語ならばローマ字で書き込もう。
(2)友達に質問して、 Yes の答えならYと、No の答えならNと書き入れよう。
(3)男友は男の子に、女友は女の子に質問しよう。

Questions（質問）		自分	お隣	男友	女友	男友	女友
Do you	like swimming ?						
	like ① ?						
	know Harry Potter ?						
	know ② ?						
	have a handkerchief ?						
	have ③ ?						
	play the violin ?						
	play ④ ?						
	want a computer ?						
	want ⑤ ?						

＊handkerchief：ハンカチ(ーフ)　　computer：コンピュータ

活動中に気をつけよう！
○①～⑤の部分以外は日本語を使わず、英語で質問し、英語で答えよう。
○Read and Look-up を心がけよう(原稿を見て⇨覚えて⇨相手の顔を見て⇨話す)。
○聞き取りにくいときは、Excuse me ?↗と聞き返したり、Apples ?↗のように上がり調子で聞き返そう。

B

date＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

class＿＿no.＿＿name＿＿＿＿＿＿

友達に聞いてみよう！

A： Excuse me. Do you [like apples] ?
B： Yes, I do. I [like apples] または No, I don't. I don't [like apples].
A： Thank you. Goodbye.
B： Goodbye.

(1)新しく習った単語を使って友達にいろいろなことを聞いてみよう。①～⑤は自分で質問を考えよう。英語で書ければ英語で。日本語ならばローマ字で書き込もう。
(2)友達に質問して、 Yes の答えならYと、No の答えならNと書き入れよう。
(3)男友は男の子に、女友は女の子に質問しよう。

Questions（質問）		自分	お隣	男友	女友	男友	女友
Do you	like running ?						
	like ① ?						
	know Monsters Inc. ?						
	know ② ?						
	have tissue paper ?						
	have ③ ?						
	play the piano ?						
	play ④ ?						
	want a telephone ?						
	want ⑤ ?						

＊tissue paper：ティッシュ(ペーパー)　　telephone：電話

活動中に気をつけよう！
○①～⑤の部分以外は日本語を使わず、英語で質問し、英語で答えよう。
○Read and Look-up を心がけよう(原稿を見て⇨覚えて⇨相手の顔を見て⇨話す)。
○聞き取りにくいときは、Excuse me ?↗と聞き返したり、Apples ?↗のように上がり調子で聞き返そう。

3．2年生での実践

(1) 必修授業

「実践的コミュニケーション能力」の4つの観点は，互いに連携している部分が多いので，1つだけを取り上げることは困難である。しかし，敢えてそれを行えば，生徒は「表現の能力」の内のspeakingに関して学ばねばならないことが多い。本稿では，授業の最初に，継続的に行っているspeaking能力を高めるための実践について述べてみたい。

① 実践の概要

生徒同志で対話をするとき，質問・返答が1回ずつで終了してしまい，交互通行のやりとりができない。これは程度の高い能力が求められる内容で，すぐにそれを求めるには無理があるように思われるが，次のようなことは2年生として体得しておきたいことである。

・教師から質問されたとき，黙って考えている，隣と相談するなどquick responseができない。

・スピーチを行うとき，readingになってしまい，eye-contactがとれていない。また，声量・スピード・明確さの3つの要素に配慮が欠けているケースも目立つ。

これらの基本的なことを学ぶため，年間を通して毎時間の授業の最初に次のような実践を行っている。このために必要な時間は10～15分である。50分間という授業時間の中に占める比率はかなり高い。

挨　拶

↓

ビンゴ……途中で毎回2名の生徒に質問を投げかける。可能な限り，生徒の反応に対する質問もし，1回通行で終わらないようにする。ねらいはquick responseであり，“I don't know.”や“I have no idea.”も立派な返事であることを伝えておく。

↓

暗唱小テスト……教科書本文の暗唱をねらいとしている。前時に学習した本文の内の1文を書く。1セクションは2頁にわたることが多いので，暗唱の範囲は1頁ずつ2回に分けて実施する。

↓

スピーチ……毎回男女各1名ずつ。年間に4回程度順番が回ってくる。30秒～1分程度の長さ。スピーチ終了後，“Do you have any questions ?”と言って，質問を受け付ける。

4月中旬からスタートし，現在（9月末）は2回目の終了直前である。

・1回目：I see.　Let me see.　wellなどいわゆる「つなぎ言葉」を使った会話例を作って発表。

・2回目：Show & Tell（進行中）

・3回目：「私が先週したこと」または「修学旅行」のどちらかを選択（予定）

・4回目：My Family Member（予定）

② 評価について

ア．結果として評定をつける資料となる部分も多いが，原則として評価は生徒自身に返る。

イ．「先生が評価しているからがんばる。」ではなく，自分自身がよりよいものをめざして頑張るのだ，という雰囲気を壊したくない。

ウ．評価は長期間にわたって行うものであるから，過度の負担がかからないように。

この3点を念頭において評価をしている。

生徒がより多くのことを学ぶには，教師からの指導・助言が当然必要である。と同時に自らが何か

に気づき，よりよいものを求めて行く姿勢も求められる。そのために，「自己評価」「相互評価」をうまく利用したいと願っている。「スピーチ」における自己評価・相互評価の方法については，年間計画を次のようにした。

・**1回目**（つなぎ言葉を盛り込んだ会話例）

評価表，原稿提出……なし

個人では会話例を考え，まとめ，それを発表するのが困難であると思われる生徒もいたため，複数で作ることを原則とした。結果として，個人であったり，2人だったり，3人のケースも出てきた。1回目は「皆の前で話すこと」それ自体を目標とした。

・**2回目**（Show & Tell）

【相互評価表】……3段階の総合評価のみ

日付	名　前	内　　容	評　価
			3　2　1

【提出原稿】……自己評価の欄はなし

見せた物（　　）

英　文	日　本　文

・**3回目**

【相互評価表】……3観点＋総合評価

名前	内　容	話し方	音量・速さ	原稿	総合評価
		3 2 1	3 2 1	3 2 1	3 2 1

【提出原稿】……3観点の自己評価の欄

	自己評価	話し方	音量・速さ	原稿	総合評価
		3 2 1	3 2 1	3 2 1	3 2 1

英　文	日　本　文

・**4回目**

【相互評価表】……3観点＋自己目標達成度＋総合評価

スピーチを始める前に，自分が特に注意したいことを伝える

氏　名	内　容	話し方	音量・速さ	原稿	達成度	総合評価
		３２１	３２１	３２１	３２１	３２１

【提出原稿】……自己目標の欄＋自己評価欄

・今回のスピーチで，最も注意して行うことは

・自己評価

話し方	音量・速さ	原　稿	目標達成度	総合評価
3　2　1	3　2　1	3　2　1	3　2　1	3　2　1

英　　文	日　本　文

このようにして，徐々に生徒自身の意識を高め，３年生になってからの本格的なスピーチに備えていく予定である。

教師が行う評価は，生徒とは別に実施している。継続的に行う。簡単にチェックできる。後で集計する際に便利な方法。などを考慮して次のように行っている。９月12，13日に実施した例を示してある。

・ビンゴ用の頁を利用する。(浜島書店編：Let's Enjoy "BINGO")

・８この単語から５つを選び，アナウンスする順番を決めてある。同時に，質問事項も決めてある。質問することで，ビンゴのリズムが途切れることになるので，早い段階で，まとめて質問することにしている。

・Ａ欄はビンゴ，Ｂ欄はスピーチの評価。'は女子。１，２，３，４はクラス。を示している。Ａ'－３は「３組の女子」となる。

・ビンゴ，スピーチの評価基準は次の通りである。

① Ａ欄　左の数字……主として quick response の評価。

３―すぐに反応できた

２―隣と相談・沈黙があった・質問を３回以上繰り返した

１―結局答えることができなかった

右の数字……反応の内容に対するチェック

３―２語以上の単語で，的確な反応をした

２―単語１語だけであったが一応返事にはなっていた

１―答えることができなかった

② B欄　左の数字……話し方についての評価

3―アイ・コンタクト，スピード，声量が充分であった。

2―上記３項目の内いずれか１つが充分でなかった。

1―上記３項目のいずれも充分でなかった。

右の数字……内容に関する評価

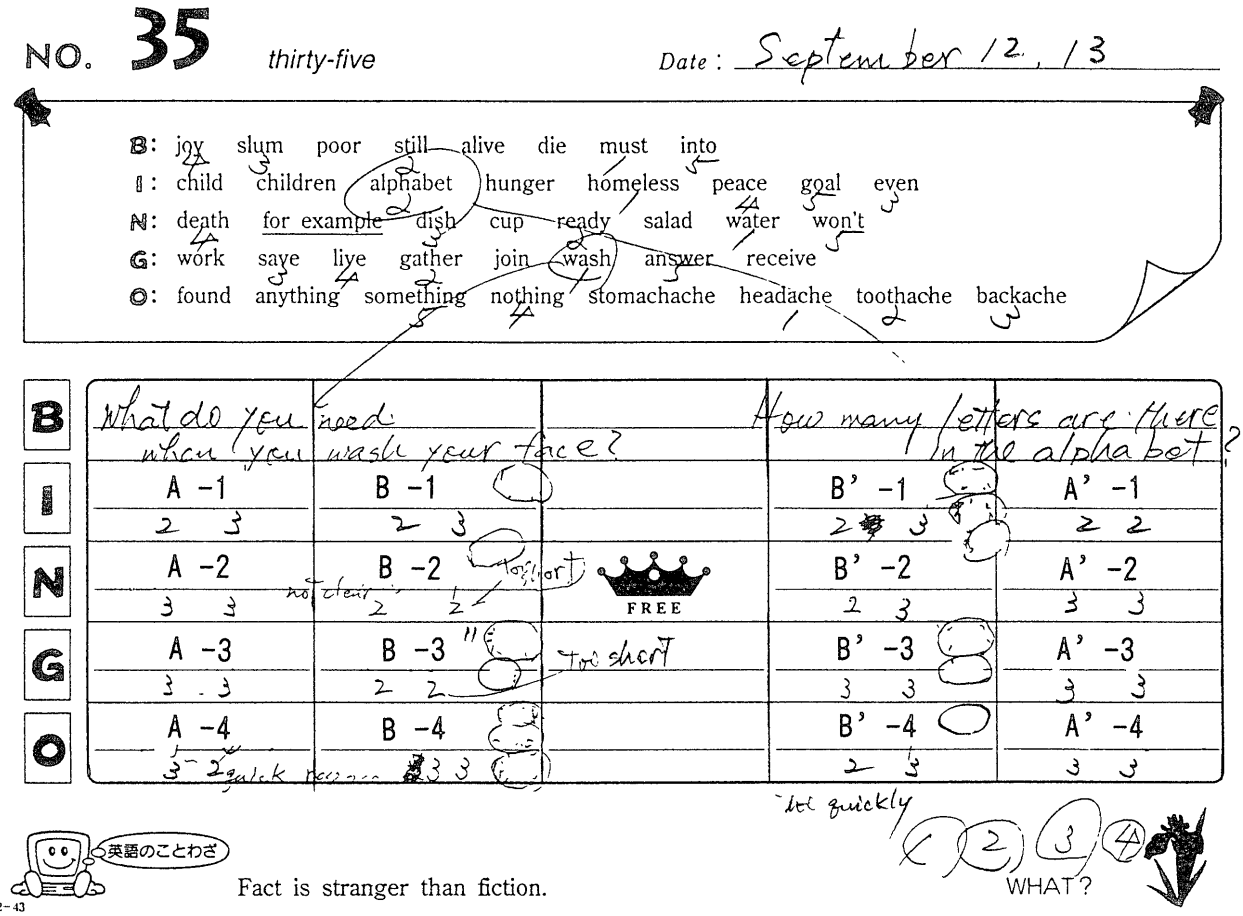
3―よく準備されていた。長さも適当である。

2―短すぎる。能力的にもっとやれる。工夫がたりない。

1―（壇上で，スピーチを行なえば，この評定はつけない）

欄の右上の◯は，スピーチ終了後の“Do you have any questions ?”に対して，挙手をし，質問した生徒名が記入されている。

【使用例】



＜資料＞

③ **おわりに**

細かい点に注意して，よりよいスピーチをめざすと，生徒の「楽しむ」という感覚が失われていく。１分程度のスピーチの間に数項目の観点を評価するとなると，教師にとっても，生徒と一緒に楽しむという余裕はない。観点別絶対評価を義務付けられている限り，全体の印象で評価することはできない。「楽しむ」要素と「評価」を同時に成立させるための方法を模索しなければならない。また，長期間にわたり継続しつつ，授業中にとったメモを集計する方法も模索してみたい。教室にパソコンを持ち込み，その場ですぐ入力する方法もある。生徒には評価規準・基準を伝え，評価することを伝えてあるが，できるだけ自然の流れの中で，さりげなく評価を行いたいと思っている。

4．3年生での実践

(1) 必修授業

即時的フィードバックの方法の1つとして自己評価・相互評価があると冒頭部分で述べたが，ここでは，スピーチ活動における自己評価・相互評価の一つの試みについて述べてみたい。

スピーチ活動は「自己紹介」と「Show & Tell」の2つをおこなったが，この2つの活動を関連付けながら，多少時間をかけて，生徒に自分のスピーチや友人のスピーチを振り返らせる（＝評価させる）工夫を取り入れた。それは，スピーチのビデオファイルを作成し視聴させることでスピーチを何度も振り返らせる工夫である。

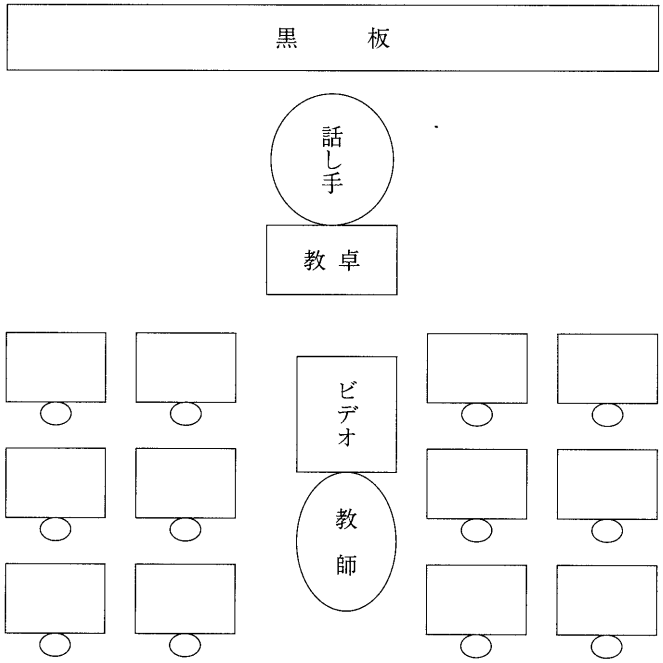
① スピーチ「自己紹介」（4月初め実施）

【目　標】

・既習の英語を用いて自分のことについて簡潔に聞き手に情報を伝えるようにさせる。

・スピーチを聞いて話しの内容を的確につかむようにさせる。

・スピーチを振り返り自分および友人のベストスピーチを書き取ることで，自分の長所及び自分に不足しているところを意識させ，次回のスピーチに活かせるようにさせる。



【指導計画（総時数　3時限）】

第1次　スピーチをする／聴く　…1時限

第2次　ビデオファイルを視聴しスピーチを振り返る…2時限

【手　順】

ア．第1次

話し手一人の持ち時間は1分。原稿は前もって作成しているが，スピーチの時には見ない。右の図のようにビデオを配置し教師がそれを操作する。教師の指示で話し手は順次教室の前に出てきてスピーチをする。聞き手の生徒は，「級友はどんな人？」という評価用紙（**資料A参照**）を持ち，1つのスピーチが終わるごとに記入する。記入項目は，2～3個スピーチの内容を書き取るパートと，「聞きやすさ」「表情」「内容」の3つの観点で友人のスピーチを評価するパートに分かれている。自分のスピーチについては記入しない。スピーチ後，評価用紙は回収する。

イ．第2次に入る前の教師の準備

ビデオ映像をコンピュータで視聴できるように，映像をMpeg1形式のビデオファイルに変換する。完成したビデオファイルをコンピュータ教室の生徒使用機（40台）のハードディスクにコピーする。

ウ．第2次

級友はどんな人？

＿＿組＿＿番 名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	どんな人	聞きやすさ	表情	内容
	阪神タイガースが好きで、色は黄と黒が好き。見るのも、するのも野球が好き。	A B C	A B C	A B C
	七尾で育った。理科が好き。	A B C	A B C	A B C
	CATは好きではない。	A B C	A B C	A B C
	サッカーを見にスペイン、イタリアに行きたい。医者になりたい。	A B C	A B C	A B C
	タケノコ好き。エンジニアになる。	A B C	A B C	A B C
	刑事（探てい）になりたい。	A B C	A B C	A B C
	家に帰ったら音楽聞いている。ドラゴンアッシュが好き。	A B C	A B C	A B C
	外国へ行きたい。医者になりたい。	A B C	A B C	A B C
	良いキーパーにもなりたくて、医者にもなりたい。	A B C	A B C	A B C
	ギターをひく。　コンピューターエンジニアになりたい。	A B C	A B C	A B C
	イギリスかアメリカに住みたい。	A B C	A B C	A B C
	けん道ができる，将ぎも好き	A B C	A B C	A B C
	本を読む趣味。	A B C	A B C	A B C
	ガンダムが好き。弁護士になりたい	A B C	A B C	A B C
		A B C	A B C	A B C
	パイロットになりたい。	A B C	A B C	A B C
	お金が一番大切。	A B C	A B C	A B C
	いつも8時におきている、家が近いから。	A B C	A B C	A B C
	ハンドボールが大好き。ハンドの選手になりたい。	A B C	A B C	A B C
	サッカー部所属。	A B C	A B C	A B C

＜資料Ａ＞

コンピュータ教室で生徒各自がビデオファイルを開いて，自分のスピーチを視聴する。ワープロソフトを起動し，スピーチの原稿と実際に自分が行ったスピーチを書いてみる。教師は評価用紙を再配付し，生徒は自分の書いた評価を参照しながら最もすばらしいと感じたスピーチを２つ（男女別）選択する。その２つのスピーチについてもワープロソフトを用いて Dictation する（**資料Ｂ参照**）。また，お互いの評価用紙を見せ合うことで，自分が友人からどのように評価されたのかを知る。

【考　察】

ア．評価規準・基準の不明確さについて

評価用紙にある「聞きやすさ」「表情」「内容」の３つの評価規準・基準についての教師側からの説明が口頭説明だけであったため，スピーチが進むにつれて生徒が下す評価が印象や感情に流されてしまった様子がある。「聞きやすさ」とは具体的にどのようなことをさすのか，また，それがどのようであったら「Ａ」なのかなどを具体的に明記して生徒に意識づけすべきであった。

イ．ビデオファイル視聴の有効性について

自分のスピーチを振り返る手段の１つとして，撮影されたビデオが挙げられよう。自分の記憶や教師・友人のコメントも振り返りの手段ではあるが，それ以上に，自分の真の姿を映し出す映像と音声は非常にインパクトのある振り返りの手段である。「先生，ビデオ見たくない。やめよう。」という生徒の声が多かったが，これは，自分の思い描いたスピーチとはかけ離れた本番のスピーチを再現されることへの嫌悪感であると推察した。ただ，この感情を乗り越えて自分のスピーチにしっかりと向かい合うことがより一歩踏み込んだ自己評価につながると考え，生徒に視聴をさせた。

厳密にいうと，今回振り返りに使用したのは，ビデオテープではなくコンピュータで容易に利用可能なビデオファイルである。ビデオファイルにすることで以下のような利便性がある。

<資料B>

3年　組　英語による自己紹介

番

本番スピーチ	予定していたスピーチ
Hello. My name is My birthday is November second. So I'm fourteen years old. I'm a member of basketball club. I like music. My favorite singer is Jamiroquai and Mariah Carey. I want to become a doctor. That's all. Thank you.	Hello. My name is I'm from Kanazawa. My birthday is November second. So I'm fourteen years old. I'm a member of basketball club. I like music. My favorite singers are Jamiroquai and Mariah Carey. I want to become a doctor. That's all. Thank you.
君のスピーチ	**さんのスピーチ**
Hello. My name is I'm fourteen years old. I'm from Matto. My hobby is playing the piano and reading books. My favorite food is sushi. But I especially like yellowtail. I want to be a pianist. I'm crazy about into classical music. I particularly like Beitourben.	Hello. My name is My birthday is February twenty-second. So I am fourteen years old now. I am from Ishikawa. My hobby is reading books. Kokodo is the most interesting book I have ever read. I like to play badminton. I have played badminton for two years. My dream is to be a public server. That's all. Thank you.

・クラス40人の生徒がそれぞれの自分コンピュータで，自分のペースでビデオを視聴できる。

・早送りや巻き戻しの手間がなく，必要な場面を即座に何度も繰り返し視聴できる。

ビデオテープのデータをビデオファイルに変換し，40台のコンピュータにそのファイルをコピーするという教師がしなければならない一連の作業については，多くの時間と労力を要する作業である。ただ，生徒の視聴の様子を見ていると，自分や友人のスピーチを時間の無駄なく確認できたようで，作業の甲斐があったと感じられる。

ウ．スピーチの Dictation について

ビデオファイルを視聴させるとはいっても，ただ漫然と視聴させていては次のスピーチへは十分に活かせないと考えた。そこで，Dictation という手法を取り入れてみた。Dictation をすることで，生徒は必然的に何度もスピーチを聴き返さなければならない状況におかれる。その過程で，上で示した3つの評価規準を基に自分や友人のスピーチを振り返えられたことはもとより，スピーチ（特に自分のスピーチ）における文法的な誤り，例えば，3単現や複数形における s の欠落や be 動詞と一般動詞の混同などといった誤りにも気づく機会になったと思われる。

生徒の様子を見ていると，ABC 基準で評価させることも自分の段階を知るという意味で意義のあることではあるが，ビデオ視聴や Dictation 作業の過程そのものが自己評価であり相互評価になって

いたのではないかと思われる。

反省点としては，Dictationの分量が多かったため，計画では第２次は２時間であったが，全員の生徒がこの時間では終了せず，遅れた生徒は放課後に残って完成させたことが挙げられる。スピーチ原稿と友人のベストスピーチの１つは活動から除いてもよいと感じられた。

② スピーチ「Show & Tell」（９月初め実施）

スピーチ「自己紹介」では，主にビデオファイルを利用した形で評価に取り組ませてみたが，そこで出てきた反省点を踏まえてスピーチ「Show & Tell」をおこなった。

【目　標】

・既習の英語を用いて，聞き手に，自分が大切にしているもの等についての情報や思いを伝えるようにさせる。

・スピーチを聞いて話しの内容を的確につかむようにさせる。

・本番のスピーチを書き取ることで自分のスピーチを振り返り，自分の長所及び自分に不足しているところを意識させる。

【指導計画（総時数　３時限）】

第１次　目標を立て，スピーチをする／聴く　　２時限

第２次　ビデオファイルを視聴しスピーチを振り返る　　１時限

【手　順】

ア．第１次

生徒は，夏休み中に「Show & Tell」の原稿を完成しておき，スピーチ当日までに原稿なしで発表できるように準備しておく。「自己紹介」および友人のスピーチをDictationしたもの（教師が夏休み中にプリントアウト）と「Show & Tellを前に振り返ろう」という用紙（**資料Ｃ参照**），および前

Show&Tellを前に振り返ろう

＿＿＿組＿＿＿番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿

① 自分のスピーチをビデオファイルで振り返って，次の３つの点についてＡＢＣで評価してみよう。また，なぜそのように評価したかを説明しなさい。どのように感じたかを書いてください。

項　目	評価	説　明
聞きやすさ	A (B)・C	笑っていたりなどして，すこし聞きとりにくかった。
表情	A (B)・C	すこしはずかしがっていて目がきょろきょろしていた。
内容	A・(B)・C	文につながりがあまりなくたんたんとしていた。

・聞きやすさとは…聞き手のことを考えた声の大きさや話すスピードか

・表情とは…聞き手とのアイコンタクトを大切にしたか。ジェスチャーを交えて自分の意図するところを伝えようとしたか。

・内容…話に起承転結などとのつながりがあるか。すでに習った語などを用いて聞き手に分かりやすくなっているか。

② あなたが最も心に残った友人のスピーチのどこが良かったのでしょうか。上の観点を参考に書いてみよう。

くんのスピーチは文の内容につながりがあって，しっかりとしたものだった。
さんは今まで習った文法をしっかり使ってわかりやすく話していた。

③ Show &Tellを前に自分のスピーチをどのようなものにしたいかを上の観点を参考に目標を立ててみよう。

みんなに聞こえやすいように大きめの声ではきりとしゃべりたい。
言葉につまっても，「well」や「Let's see」がすらりといえるようにして，どうどうとしたい。

④ Show &Tellのスピーチはどうでしたか。振り返ってみよう。

項　目	評価	説　明
聞きやすさ	A (B)・C	表現をすこしまちがえたが，大きな声で発表した。
表情	(A)・B・C	今までで１番落着いてできた。
内容	A・(B)・C	文を忘れたが，アドリブもできてきりぬけれた。

⑤ あなたのスピーチは，あなたのいてた目標の到達しましたか。した場合もしなかった場合も，その理由を考えてみましょう。

文を覚えていなかったけど，だからこそ今までで１番堂々とスピーチできたと思う。目標はいちおう到達できました。

＜資料Ｃ＞

回同様の形式で評価用紙を教師は生徒に配付する。生徒は，教師の規準の説明と Dictation したものを参考に「Show & Tell を前に振り返ろう」に記入する。今回は前回のスピーチの反省を受け，自分のスピーチの目標を定めることからスタートする。教室内におけるビデオや教師の位置，スピーチの進め方も前回同様。相互評価用紙の扱いも前回同様である。

前回と多少異なるのは，自分のスピーチが終了した時点で即座にスピーチを振り返り，自分の定めた目標の達成具合を書きとめておくことである。

イ．第２次に入る前の教師の準備

前回と同じ。

ウ．第２次

ここでの活動も，ほぼ前回と同様であるが，Dictation の量は前回の反省から，自分の本番スピーチのみとし，自分のスピーチを視聴しての感想を書く作業を新たに加えた。

【考　察】

ア．２つのスピーチの関連性について

生徒の書いた「Show & Tell を前に振り返ろう」やビデオファイル視聴後の感想を読んでみると，２つのスピーチが生徒の内面においてしっかりと関連づいていると思われる。教師の示した評価基準に照らして，どれだけ自分のスピーチが進歩したのか。どの点がうまく行きどの点がもっと改善すべきなのか。次のスピーチではこんな風にしてみた等，具体的な言葉で自己評価ができている。以下，生徒の感想からいくつかピックアップしてみたい。

・前回よりもしっかりおぼえていて，あまりつまったりしなかったのでよかったと思う。
・前のスピーチよりアイコンタクト，聞きやすさがあがった。
・緊張に押されて，前回同様，パニック状態だった。ちゃんと thank　you の文をいえたのか記憶にないのでものすごく不安。目標は，50％達成ってところです。
・前回よりも落ち着いて話せたと思うけど，あい間を自分で補えるとよかった。
・前のときよりかは，みんなに言いたいことがつたわったと思います。前のときよりは（少し）大きくなってたような…。

イ．教師自身へのフェードバックについて

今年度は３年生におけるスピーチ活動はこれ以上予定をしていないが，今後のスピーチ活動をより実りあるものにするために，２年生のスピーチ実践報告と併せて，ビデオファイルの早期導入および継続的な自己評価・相互評価の蓄積（可能な範囲でのデジタルポートフォリオ化）をより計画的に進め，３年間を通して全てのスピーチが密接に関連するように試みたい。

(2) 選択授業Ａ（補充的な内容）

３年生を対象とした補充的な内容を実践する選択Ａでは，教科目標である「実践的コミュニケーション能力」のうち，「聴くこと」の能力を高めることに焦点を当てた活動をすることにした。本校では，基礎英語を聴取するなど日頃から「聴くこと」の能力を高めるための活動を継続しているが，それでも質，量ともに十分とはいえない。特に，日常生活の中で，普通の速さで話される自然な英語を聴き取る練習に欠けている。この選択Ａは週１回，50分の活動であるが，集中的に生の英語を聴き取る時間とした。

①　全体計画

ア．日本の「鉄人28号」をモデルに制作したといわれる Iron Giant の DVD を利用する。この作品は，男の子が主役で，約80分のアニメーションである。

イ．せりふの中から，既習の言語材料を含み，冠詞・前置詞など音が連なっている部分を選び，その部分を空欄にする。（１回に40箇所の空欄）

その音を聴き取る。

ウ．教師側の準備

・ストーリーの流れの中で，都合のよい１回分を決定する。（５分～８分程度）

・この範囲の中の全せりふをタイピングし，空欄にする部分を決定し，印刷する。

・１回分のストーリーを切り取り，「字幕なし」「英語字幕付き」を生徒一人一人のコンピュータにコピーする。

エ．生徒各自が子機に落とした映画を利用するため，全員が DVD を購入する。選択授業が修了した段階で，それぞれに渡す。

オ．１回目，２回目……40分ずつ「字幕なし」で視聴し，全体の流れを把握する。

３回目～11回目……聴き取り練習

② １時間の流れ

ア．前面のスピーカーから流れる音声のみを聴き，全体の内容を把握するとともに，場面を連想する。（５分～８分）

イ．資料を配布する。

全体で，指定された部分（下線部）を数回聴き，穴埋めする。

映画と同じスピードで発音してみる。

ウ．各自のコンピュータを立ち上げる。

エ．「字幕なし」の画面で，場面を見ながら音声を聴き，空欄をうめる。(20分)

オ．「字幕付き」の画面に変更し，場面と字幕を見ながら，自分の解答をチェックするとともに，聴き取れなかった部分を確認する。

正答率を計算し，記入する。(10分)

カ．「字幕なし」の画面で，再度視聴する。（５分～８分）

③ 評価について

選択教科であるから，多少なりとも英語に興味・関心のある生徒集団である。コース選択に当たって，どのような内容の活動をするかについても分かっていることであり，生徒の授業への取り組みの態度には全く問題がない。

本講座は「聴き取り能力を養う」ことを目標としており，次の２点を評価規準とした。

聴き取れない単語や表現があっても，全体の内容を掴もうとする態度がある。
自然なスピードで話される英語に関心をもち，耳の訓練を意欲的に継続する態度がある。

各自が１台ずつのコンピューターに向い，聴き取り訓練をする時間が主流になるという授業形態のため，一人ひとりの成果・内容については自己評価，自己分析に頼る面が多い。聴き取りにくい部分を理解するための工夫として，前期に履修した生徒は次のように述べている。

・全体の流れをふまえ，文章の内容から判断するようにした。（３）

・全体の内容を理解するようにした。
・初めは音だけで大まかに，次に字を追って細かくチェックした。
・ブランクの部分だけでなく，周りも集中して聴いた。（2）
・集中してがんばった。（4）
・何回も繰り返して聞いた。（8）

また，聴き取りにくい音として次のようなものをあげている。

・言葉１つ１つをちゃんと言うのじゃなく，言葉がつながっている時は難しい。（8）
・can と can't, you're とかが聴き取りにくかった。（3）
・速い単語。知らない単語。
・自分のとは全く違う発音の言葉は分からない。
・前置詞（速く，弱くほとんど発音されていない）（2）
・速く話しているときの途中の単語で，長い単語がうまく聴き取れなかった。
・冠詞，前置詞（4）
・文頭や文末の音をうまく捉えられなかった。
・聴き取れない音に統一性はない。全部バラバラだったと思う。
・BGM が大きい時。

生徒なりにきちんと自己分析ができていることを伺わせるものである。毎時間の最後に聴き取れなかった音の確認，全体の内容確認の時間をとっている。その集積であろうと思われる。

④ 実践例

次は，３回目と11回目（集中して取り組む聴き取りとしては初回と最終回）に生徒に配布した資料である。実際は未習の単語に意味を入れたり，内容を掴めない文の説明を入れたりしてあるため，１回の分量はＢ５サイズで３枚～４枚になる。

・太字・二重下線を引いた語が空欄になっている部分。
・下線部は全体で聴き取り，発音練習をする部分。

４回目　……４分00秒

H：Hello！ Come out！ Hey, big metal guy, I got ***food here for you***！ Metal！
Crunchy, delicious metal！ ***Come out*** and ***get it***！

So I guess you're not gonna hurt me, huh？
The shutoff switch. You saw me save you.
So ***where are you from***？
You came from the sky, right？ ***From up there***？
Don't you remember anything？
Maybe it's that bump ***on your*** head. Do you talk？
You know, words？ "Blah, blah, blah," like that？
Can ***you do that***？ "Blah, blah, blah."
Well, you get the idea anyway. ***Let's see***.
See this？ This is called a rock. Rock. Good.

Yeah ! No. That is a tree. Rock. Tree. ***Get it*** ?

That's right ! My own giant robot.

I'm now the luckiest kid in America ! This is unbelievable. This is the greatest discovery since, ***I don't know***, television or something. I gotta tell someone. I should call... . No, they'll panic.

People wig out and shoot when they see something ***big like you***. Wig out. It means crazy. You know, like... .

No, no ! ***Don't do that*** ! That's the stuff that makes them shoot at you.

10回目 …… 7分59秒

D : OK.

M : All right, where is it ?

D : What ?

M : You know darn well what. The monster. The giant thing. The metal man.

D : Ahan. The metgal man. Jeez, you were scaring me there for a second.

I thought I was under attack or something. Ah, ***he's in the*** back. Come on.

I'll show you. You guys got here just in time.

This rich cat, some industrialist, wants him for the lobby of this company.

He whipped out his checkbook on the spot. I said, "Hey, you got him for the rest of your life. But, what, I gotta let go the moment I give birth ? I mean, come on. Give me some time to cut the umbilical." Here he is.

Anyway, I haven't sold him yet. So if you really want him and if you know, you throw in... ...a competitive bid...

M : Sir, listen.

8 : Step outside, Mansley. You realize how much hardware I brought out here ?!

You just blew millions of Uncle Sam's dollars out of your butt !

M : I gotta admit, I'm relieved that this is what Hogarth ***was talking about***. I mean, I was beginning to think it was real. I mean, don't get me wrong. I like it. But do you need all this stuff on the surface ?

D : Well, no, actually.

M : It seems kind of slapped on. Not as thought-out as this other piece.

D : ***You like that one*** ?

M : Yeah.

8 : You'll be inspector of toilets by the time I'm finished with you !

Now, pack up. I'll expect you back in Washington to clear out your office.

D : Yes, sir.

M : I see why Hogarth sneaks out here.

D : You mean, you know about that ?

M : ***Now I do***.

H : Bye, Kent, and all that that implies.

D : Okay, ***you can move now***. Nice job !

H : Thruster to base. I'm going in. Only one creature could create so much estruction.
The hideous, people-eating... ...killing machine, Atomo ! Atomo !

G : No Atomo. I'm Superman.

H : Okay, Superman. Take this ! Stupid gun.
Hey, what's wrong ? As I was saying, take this !
What happened ? What was that...

D : Stay down and follow me. Get back ! I said, get back ! I mean it !

G : No, stop. Why ?

H : It was an accident. ***He's our friend***.

D : He's a piece of hardware. Why do you think the Army was here ? He's a weapon ! A big gun that walks !

G : I not gun.

D : Yeah, what's that ? You almost ***did that to*** Hogarth !

H : Come back !

D : Stop !

H : Giant ! Come back !

D : It was defensive. He reacted to the gun.
You won't get there fast enough ***on foot***.

4 : See, I told you it was a big hoax. Dad said...

5 : Give me the binoculars.

4 : What ? What ?

5 : There it is. I see it ! It's big. It's walking away.

4 : Hey, give me those.

5 : Over there. See it ?

4 : The monster ! Holy cow !

6 : Watch it !

5 : Help ! Somebody, help me ! I don't wanna fall. Help !

4 : I'm slipping. I ***can't hold on*** much longer !

5 : Dad !

4 : Daddy !

7 : He saved those boys !

8 : It's friendly !

M : What ? Stop ! Look ! Look behind you ! The giant, it's attacking !

It's stomping the town ! I was right !

8 : Sweet Mother of God.

M : Look, damn you !

G : I am not a gun.

H : Hey, mom.

Let's ***get out of here*** ! Run !

D : Stop ! There's a kid ***in his hands*** ! Stop shooting ! He only reacts defensively.

If you don't shoot, he's harmless. You gotta tell the general !

M : This is all your fault, beatnik. If you...

D : Shut up and listen ! You've gotta make them stop.

The giant's got the kid ***with him***.

M : I'll take care of it.

He says the monster's killed a kid. Sir, we must stop it at all costs.

8 : Go to code red. Repeat, code red !

⑤ **生徒のアンケートから**（対象：27名―平成14年前半履修）

ア．聴き取りの力はつきましたか。

ついたと思う……25人
少しついたと思う……２人
あまりつかなかった…０人

この数字を見る限りでは，かなり効果があったということになるが，生徒の印象をそのまま受け入れることはできない。ただ，生徒が１時間に処理できる分量は，前述の実践例でも分かるように，確実に増え，最終回では初回の倍の分量をこなすまでになっている。（　　）の数は同じであるから，穴埋めにかけることのできる時間は減っているはずである。初回から最終回までの平均得点は次のようであった。

第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第10回
59%	50%	57%	55%	57%	57%	42%	74%

同じ語を聴き取りするわけではないため，単純に数字を比較することはできないが，生徒自身が思っているほど効果があったとも思えない。そこで，最終回が終わってから第４回目を同じ条件で挑戦してみた。

第４回
59%

確かに効果はあったようである。また，生徒は次のように答えている。

イ．最初に比べてどのような力がついたと思いますか。

・１つ１つを注意深く聴き，いろいろな音を聞き取る力がついてよかった。

・最初よりも聞こえやすくなった。（８）

・想像力

・難しいリスニング問題でも，少しは聴き取る力がついたかもしれない。

・速い言葉を聴き取る力。スピードに慣れた。(6)
・冠詞と名詞を続けて発音されるなど，連続している音を少し聴き取れるようになった。(3)
・三単現のsや，過去形のedなどが聞こえるようになった。
・英文の切れ目や，単語の区切りが聴き取れるようになった。
・場面を考慮して聴くようになった。
・集中力

少々長くなるが，生徒の生の声を挙げておきたい。

ウ．選択Aの活動全体を通じての感想を書いてください。

・英語だけでなく，アメリカンライフも少し分かってよかったです。
・英語は文法だけでなく，会話表現で自然に身に付くものだなと思いました.
・日本語にもいろいろな言葉があるように，英語にもその時その時に合わせていろいろ変化することが分かりました。
・今度，英語の映画を（字幕なしで）見てみたいなと思います。(4)
・知らなかった単語や表現が分かったのがうれしかった。
・アメリカ英語が聴き取りやすくなった。
・初めてこんなことをしたが，難しかった。でも楽しかった。(3)
・これから，海外の映画を見るとき見方が変わってくるかもしれない。
・とても興味深かった。(2)
・吹き替えより字幕の方が外国の感じが出てよい。
・会話表現の理解力があがったと思う。
・家でもう一度見たい。
・とても勉強になった。将来役に立ちそう。
・ストーリーもおもしろく，聞取りしながら楽しめた。
・毎回聴くのが楽しみで，聴き取れたときはとても嬉しかった。
・とてもよい勉強になった。(2)
・聴き取れる言葉が増えてよかったです。
・埋まる（　　）の数が増えていくのが楽しかった。
・この活動をしてから，テレビとかでも単語を聴き取ったり自然に内容に集中するようになっていた。
・自分の今聴き取れる限界まで聴き取ることができたと思う。良かった。
・テストの聞き取り問題は非常に難しく，泣きそうになります。最初に比べて正答率が多少は上がっているのには本当にびっくり。嘘みたいです。
・他の映画で同じようにやってみたい。
・このように英語を耳にできる機会があってとてもよかったと思います。聴き取れたときはうれしいし，なんとなくでも，だんだん理解が速くできるようになったと思うのでよかった。
・リスニングが今まで大の苦手だったけど，この授業を通して少し克服することができたので本当によかった。また，こうした授業をしてみたいです。

(3) 選択授業B（発展的な内容）

昨年度と同様の学習活動の中で，自己評価・相互評価を意識的に授業の中に取り入れながら，生徒の

意欲の継続や向上心の高揚を図ってみた。なお，基本的な学習活動は，DVDに収録されている映画の好きな一場面を選び，そのセリフをアフレコする活動であるが，その詳細については，本校紀要第44号p.98を参照のこと。

① ねらい

自然な英語を模倣させることで，自己表現できる力を養わせる。具体的には，生徒各自に好きな映画の場面（共感的に自己表出したくなるような場面）を十分な時間をかけて探させ，その場面にアフレコすることを通して『英語で自分の心を伝える力』『英語で話す力』を向上させることをねらいとした。

② 活動計画

・前期11回（水曜日５，６限目）

・場所　コンピュータ教室

No.	月　日	活　動　内　容
1	May 15th	オリエンテーション，様々な映画の視聴，活動のまとめ
2	May 22nd	様々な映画の視聴，活動のまとめ
3	June 5th	英語字幕の書き取り，アフレコ体験，活動のまとめ
4	June 12th	好きな場面の探索，活動のまとめ
5	June 19th	好きな場面の決定，活動のまとめ
6	June 26th	英語字幕の書き取り・英語の聞き取り，活動のまとめ
7	July 3rd	Shadowing，仮録音，活動のまとめ
8	July 10th	Shadowing→Recitation，仮録音，活動のまとめ
Summer vacation		セリフ音声抜きのビデオファイルを焼き付けたCD-ROMを使用し，各自，自宅で練習
9	September 4th	Creative Imitation，相互評価，活動のまとめ
10	September 11th	After Recording，活動のまとめ
11	September 18th	After Recording，活動のまとめ

③ 生徒がアフレコした映画

・ティファニーで朝食を
・Harry Potter
・Mission Impossible 2
・Star Wars 1
・エリンブロコビッチ
・Father's Day
・Matrix
・Gladiator
・ブリジッド・ジョーンズの日記
・The Rock
・A.I.
・ジュラシックパークⅢ
・Snow White
・Romeo & Juliet
・Forest Gump

④ 評価の場面【考察】

ア．自己評価について

授業の終了10分程度を使って，授業の活動記録と自分が授業で感じたことを毎回記述させることで自己評価に代えた。ABCといった単純な評価を取り入れなかったのは，自分の言葉で書くこと

NO	日付	内容	備考と自分の心の中身
1	May fifteenth	名作映画紹介番組を見た。	アフレコはきれいな女優のアフレコをしたい。ジュリア・ロバーツとか。好きな映画が多いから選ぶのは大変だと思った。感動モノかラブコメがいい。昔の名作の映画も見てみたいと思った。ローマの休日・ティファニーで朝食をなどなど。ホラーにも興味がある。
2	May twenty-second	名作映画紹介番組を見た。	2位のカサブランカのセリフで「君の瞳に乾杯」という名ゼリフが出てきて、印象的だった。私は映画は白黒よりもカラーの方が見やすくていいと思うけど、白黒の良さもあると知った。私はいっぱいビデオを借りて、それを見てから決めたいから選ぶのが大変。今週末いっぱい借りてきたいと思う。
3	June fifth	ハリーポッターのセリフをコピろう!!	何か言葉をしゃべってて英語の方が高低が激しいような気がする。だから大変。単語と単語のつながりとかすらすらいかなくて困る。発音全然無理!!
4	June twelfth	映画のシーンを選ぼう！！	映画をずっと見てたけどいいシーンが見つからなかった。残り1時間分を来週見てそれからいいシーンを選ばなくてはいけない。時間足りるか心配だ。この映画の主役のエリンはとってもかっこいい役だから、セリフもいいの選んでかっこよくアフレコしたい。
5	June nineteenth	映画のシーンを選ぼう！！	私が選択した場面はエリンが賠償金について文句を言っている所です。何か怒りながら言ってるから早くてとっても難しそう。できるかなぁ～、場面的には1番この映画で大事な所であたしも好きなんですけど。
6	June 26th	文章を写そう！	セリフが長すぎたのでやっぱり縮める事にしました。今日は文章を写し終わった後、時間が余ったので山瀬さんのDVDのロミオとジュリエットを見せてもらいました。おもしろかった～☆何回も自分のばっか見てるとあきてきます。
7	July third	単語を調べよう！	わからない単語がおぉ～い!!!(怒)たぶん脊椎障害とか子宮摘出とかそういうのだと思いますのでもう無視します。かっこよくセリフしゃべれるようになるかなぁ～？？とにかく早口だからむず～い！！
8	July tenth	自分のシーンの練習をしよう！	発音の分からない単語がいくつかありました。早口しゃべりはきついです。うちでいっぱい練習するしかなさそう。うちで頑張ります。セリフもちゃんと覚えてアフレコに臨みたいです。単語と単語のつながりとか気をつけて。恥ずかしがらずにセリフを言えるようになりたいです。
9	September fourth	アフレコをしよう！	出来が最悪でした。時間がなかったです。てか、夏休み中練習する予定だったのにうちのパソコンがぶっ壊れて練習が1回もできなかったのですごく腹が立ちます。早口ですごい言いにくい単語とかあって難しいです。怒っている感じもうまく出せないし、抑揚もはげしすぎてなかなかできないし。全然日本語と違うから言えません。うまくなりたいです。
10	September eleventh	アフレコをしよう！	早口すぎて映像と合わせらんないかもしれません。やばいです。口がまわりません。
11	September 18th	アフレコをしよう！	最後だから何回も録音して頑張りました。だんだん早口にも慣れてきてよかったです。強弱もつけれるよう頑張って、最後はセリフの意味も考えてちゃんと言えるよう気をつけました。選択英語Bをとった感想は学校で自分の好きな映画が見れて楽しかったし、登場人物のせりふを言うことで、普段の英語の教科書を読むのとは違う感じで英文を読んで楽しかったです。文と文のつながりも映画の中とかすごくて英語が母国語の人はこれが当たり前なのか～って感動しました。きれいな英語が話せるようにこれからも英語頑張りたいです。おわり

No	日付	内容	備考と自分の心の中身
1	May fifteenth	今後の予定と映画鑑賞	アメリカの映画をいくつか見たが0といっていいほどみたことがないものが多かった。また今のところまだなんのDVDにしようかきまっていない。アフレコをまだやったことがないので試しにやってみたい。
2	May twenty-second	映画鑑賞	1位まですべてみたが、自分が出るであろうと考えていた映画はでなかった。また1位の市民ケーンと呼ばれる映画は見たことがない。監督などがいうにはすばらしい映画らいしので1度見てみたいと思う。またDVDの検討はある程度決めたが、それがあるかどうかが不安である。
3	June fifth	アフレコ練習	今回初めてアフレコをした。5回くらい練習したらできるようになってきた。問題はハリーポッターの声と自分の声の高さがまったく違ったのでちょっと困った。今回よりアフレコは楽しいことがわかった。
4	June twelfth	場面選択	今日やっと見ることができた。しかし、未だ一人でしゃべる部分がほとんどない。ここまでやっと1時間12分みた。全部の半分くらい見たのだがこれから1人でしゃべる部分があるか心配だ。
5	June nineteenth	場面選択と場面決定	正直まだぜんぜん決まりません。どれもきわどい物ばかりなので家で見て決めてきたいと思いますが…。いいですか？
6	June twenty-sixth	選んだ場面の字幕写しとファイル作り	決めたはいいもののめちゃめちゃ長いです。楽しくなってきたんで放課後とかもやりたいです。
7	July third	場面の単語調べ	後もうちょっとで単語が調べ終わるところだった。とても長いくて、息つぐ場所があまりないような気がしますが、これでいこうと思います。
8	July tenth	場面のアフレコ練習	3/5くらいしか練習が終わらなかったため。録音ができなかった。また、DVDを忘れてしまったので、明日は忘れないようにしようと思う。
9	September fourth	アフレコ練習および録音	休みなしに続くところが多いので1度間違えると後のほうまで駄目になってくるので、たいへんだが、楽しい。家での練習が必要になってきた。
10	September eleventh	画像と音声の合成	異様ほど時間がかかり結局すれすれ2回しかできなかった。2回目は少々短くなったが、やはりどこか長いものがある。だんだんできないところが確定してきた。その部分以外は何とか大丈夫なのだが…。
11	September eighteenth	本番	結局あるできないところが最後までいいのにはできなかった。字幕のspeedについていけなくなり適当に言ってしまうなどの反省事項が出てきた。それでもやはり楽しかった。映画を見ることにも今度から別の観点で絵見ることができそうだ。やはり授業中の英語と映画とはまたずいぶん違う感覚だった。面白い体験ができましたありがとうございます。

で，『英語で自分の心』をどのように伝えたらよいのかを自然な形で考え確認させることができると判断したからである。

活動場所がコンピュータ教室であったので，パソコンを利用してファイル（エクセル）で記録させた。そうすることで，生徒は必ず以前の自分の記録に目を通すことができ，反省が深まると考えた（**資料A参照**）。教師は授業後ファイルに目を通し，生徒の感じたことや悩みに対して次の授業までに休み時間などを利用してアドバイスやコメントを行った。

選択授業は，原則的に，その教科に対して意欲・関心の高い生徒が参加しているが，その意欲・関心がどの程度維持されているのかを見ていく上でも，この方法は教師にとっても有効である。表面的な態度や行動だけでは測ることができない部分を知る上でも貴重な資料となった。

イ．相互評価について

第9回目の活動時に，生徒同士に録音したものを相互に聴かせ，観点別に記述式で評価させた。前期の生徒数は23名。3～4名のグループに分け，時間の都合上グループ内だけで相互評価を行った。評価といっても，「お互いのアフレコをより良くするためにアドバイスをし合いましょう！」という形で実施した。相互評価をさせると，とかく相手のことに関しては美辞麗句を並べがちであるが，「お互いの力量を高めるためには，良いと感じたことは良い，改善したらよいと感じたら，改善すべき，と遠慮なく書きなさい」という主旨のことを教師がしっかりと伝えた。

お互いのアフレコをより良くなるためにアドバイスをし合いましょう！（選択英語B）

	場面に合った声の大きさであったか	英語らしく聞こえたか（声の抑揚、強弱、音のつながり）	登場人物の気持ちが伝わるアフレコか
の自己評価	声の大きさでは、がんばったと思う。しかし、場面に合った声の大きさかどうかはちょっと出来ていない。	スピードがとても速すぎて、出来なかった。	なるべく努力した。登場人物になりきっているかが、ほかの人に通じるかというとまだ出来ていない。
へのアドヴァイス	声が高くて、興奮しているようでよかった。強弱もちゃんとついていて、ただ自声にあまりならないようにしたらいいと思う。	とても聞き取りやすかったが、英語らしく発音されていなく、日本語らしい発音になっていたのでそれに注意して練習したらいい。	もうすこし登場人物になりきって欲しい。そうすれば、きっとうまくなると思う。
へのアドヴァイス	声の大きさはよかったが、強弱があまりついてない。これからは、声の強弱に注意して練習したらいいと思う。	ちゃんと聞こえた。	とても長い文章なので、声に出すだけで、精一杯だったと思う。しかし一生懸命なりきろうとしていた。あとは焦らないようにして欲しい。
へののアドヴァイス	声の大きさはよかった。やはり、場面ごとの大きさの調節が大事である。	声のつながりは、問題なし。声の強弱に関して、もう少し表現してみたらいいと思う。	君と同じく、もう少し登場人物になりきって欲しい。これは大切なことだと思う。

＜資料6＞

ある生徒はアドバイスを見て，「厳しいことを書くなぁ。」とか「そんなこと言われたってできないよ。」などと感想を漏らしていたが，そのアドバイスを受けてアフレコをより良くしたいと言っていた。

最後に，選択Bの活動全体を通じての生徒の感想を載せておきたい。

・今日で選択B英語の最終日。今回も前と同じように映像と音声の合成をした。今回は4つ作

れた。やっぱり最後が一番良くできたと思う。100%満足のいく物ではないけど，自分としてはベストを尽くしたつもりです。選択英語Ｂはとても楽しかった。

・今日は全部で５回(？)録音できました。これで最後かと思うともっと練習しておけばよかったなぁと後悔するばかり。声が小さすぎたかもしれない。英語でアフレコは本当に難しいかったけれど楽しかった。今度から洋画をみるときは英語を聞き取ったり英語の字幕も見るような努力をしたいです。

・なんか結局，前回録音したのを選びました。前回と比べてあまり進歩しなかったのが心残りです。進歩したところといえば機械の都合上，ずれる部分をあわせるのがまあ上手くなったかなと思います。

・前のときよりはすらすらといえるようになったけど，やっぱり映画みたいにしゃべることは大変でした。

・今回，録音できるのか不安だったけど，無事機械も復活して３回録音することが出来ました。おかげで，なんとか自分のベストを尽くしました。前期はよくがんばりました。

・５つのデータから一番いいものを選んだ。なんだか全部同じように聞こえて選出するのが難しかったけど，よく聞くと発音の旨く言ったものといかなかったものがあってやっと一つに絞ることができました。この選択英語を通して面白い体験といろいろな発見をできてよかったです。

・いよいよ最終回です。今回も挑戦しましたが，やっぱりずれた・・・　それでも僕はがんばりました。根気でここまで合わせました。音もいっしょに入れば簡単なのに・・・でもとても楽しかったです。自分の声が映画に入って面白かった。またいつかやりたいです。

・あんまり英語っぽくなかった。本番すっごいむずかしくて，すっごい苦労した。泣ブリジットの口の動きにあわせてしゃべるのがなかなかできなかった。

・ついに本番です！今日は何回も録音したけど一回しか映像と合成することができませんでした。量が多いうえ早いので練習も本番も大変でした（＞０＜）でも最後にできた作品（？）は最初自分が思っていたよりずっと良いものになったと思います。選択Ｂは英語をえらんで良かった！！！

・少し声が大きくできました。最後の授業だったけど，とても楽しくできて，よかったです。

・だいぶ録音するのが上手になってきたので「練習すればうまくなるものだなぁ」と思いました。今回できなかったので来週の放課後できるようになったらいいなぁと思いました。とっても楽しい選択英語Ｂだったと思います。

・前回やったので，合わせて喋るのには慣れました。でも逆に喋り方が乱暴になってしまいました。そのことを授業の後半で気づいたので，あせりました。選択英語，楽しかったです。選んで良かったです☆

・本番はかなりうまく言うことができました（でももっと頑張れたかなーと思います）アクセントと強弱をしっかりできればよかった。